

学校名 湯梨浜町立羽合小学校

校長名 谷口章人 印

1. 学校の教育目標

やさしく かしく たくましく

～仲間とともに 地域とともに 未来を切り開く子どもの育成～

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 落ち着いた生活の中で、「個」と「集団」の力を伸ばす。
- 育てたい（育てなければならない）資質・能力が身につく授業改善を進める。
- 地域とつながり、地域に根ざした教育活動を充実させる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	中間評価	課題等
(1) 心を耕し豊かな心を育む【やさしく】 ○友だちを大切にしたり関わり ◇「誰にでも自分からあいさつをしている」 → 80% ◇「友だちをよぶときは、『さんづけ』をしている」 → 93% ◇「友だちに対してていねいな言葉を使っている」 → 80% ○あたたかい学級づくり ・hyper-QU 結果 ◇「クラスの人協力したり応援したりしてくれる」(上学年)、「何かをしようとする時クラスの人協力してくれる」(下学年) → 85% ◇「みんなのためになることを見つけて実行している」(上学年)、「誰かが困っている時自分から手伝いをしてる」(下学年) → 85%	B C	◇「誰にでも自分からあいさつをしている」 → 74.2% ・あいさつの場が設定されているときや、全員でのあいさつはできても、一人でいるときにはあいさつができない。 ◇「友だちをよぶときは、『さんづけ』をしている」 → 92.3% ◇「友だちに対してていねいな言葉を使っている」 → 96.0% ・仲の良い友だち同士での言葉遣いにまだまだ課題がある。 ・クラス会議を活用して、各学級の実態に合わせたあいさつの取り組みを行う。 ◇「クラスの人協力したり応援したりしてくれる」(上学年)、「何かをしようとする時クラスの人協力してくれる」(下学年) → 83.3% ◇「みんなのためになることを見つけて実行している」(上学年)、「誰かが困っている時自分から手伝いをしてる」(下学年) → 83.4% ・話し合い活動では、自分たちの課題を解決していこうという思いをもたせることで、意見を言い合ったり、助け合ったりする姿が増える。

		てきている。みんなで決めたことを振り返る時間の設定も引き続き行っていく。 ・授業内だけでなく、いいところみや係なども活用して友だちと関わり合う時間を増やす。
(2) 未来を切り開く資質・能力の育成 【かしこく】 ○ICT機器の効果的な活用 ・学級担任：ICT機器の使用についてのアンケート ◇ICT機器の活用の仕方を知ることができたか → 85% ◇情報教育 年間指導計画の重点項目が実施できたか → 85% ・児童：情報機器の活用能力アンケート ～タブレットを使って～ ◇ペンを使って操作できる（低学年） → 85% ◇ローマ字入力ができる（中、高学年） → 各85% ◇発表スライドができる（高学年） → 85% ○基礎・基本の定着 ◇算数科における計算領域の単元テスト「知識・技能」の得点率 → 80% ◇学期末のまとめテスト 計算領域の得点率	B ◇「ICT機器の活用を知ることができた」 → 90% ◇「情報教育 年間指導計画の重点項目（情報モラル）について指導することができた」 → 73% ・後期に向けて、発達段階における情報モラルの指導事項をより具体的に焦点化することで、教員が指導事項を明確に把握し、児童たちに指導ができるよう努める。 ・児童の情報機器の活用能力アンケート結果 ◇ペンを使って操作ができる（低学年） → 93.7% ◇ローマ字入力ができる（中学年） → 73.5% ◇ローマ字入力ができる（高学年） → 96.4% ◇発表スライドができる（高学年） → 94.1% ・ほとんどの学年で課題となる項目を十分に達成することができた。中学年は、ローマ字を学習中のため、宿題にローマ字に関するものを出したり、授業でローマ字入力の時間を確保したりしながら今後、定着を目指していく。 ・さらに情報機器を活用していくために、低学年では動画を撮影したり、見たりする技能、高学年では、Google classroom を効果的に活用したり、共同編集に取り組んだりする技能が身につくことを目指していく。 A ◇算数科における計算領域の単元テスト「知識・技能」の得点率 → 学校平均 83.8% ◇学期末のまとめテスト 計算領域の得点率	

(様式3)

→ 85 %		→ 学校平均 85.7 % ・朝学習の成果として、継続して取り組んできたことで児童は集中して学習に臨むことができ、計算の速さや正確性が確実に向上している。児童の意欲がさらに湧くよう、学習内容に変化を持たせたり、方法を工夫したりしていきたい。 ・日々の学習では、前時の振り返りを丁寧に行う。また、新しい単元の導入の際には、前学年の本単元に関わりのある内容を振り返り、児童が安心して学習に臨めるようにしていく。 ・家庭学習の工夫では、実態に合わせて、つまずきのある箇所に関するものや前学年の内容の復習などを準備し、児童に「分かった、できた」と達成感を持たせることができるよう配慮していく。
(3) 健康でたくましい心と体づくり 【たくましく】 ○基本的な生活習慣の定着 ◇ワークシートの回収率 → 85 % ◇ぐっすりデーの達成率 → 85 % ◇ハワイふれあいデーの結果 → 85 % ○体力の向上 ◇体育アンケート 運動することが楽しい → 85 % ◇保護者アンケート お子さんは学校で元気に体を動かしている。(運動している。) → 85 % ◇短時間運動プログラムに取り組むこ	C B	◇各学級ほとんど回収できた。 ◇ぐっすりデーの結果 → 85.1 % ・引き続き声をかけていく。 ・学校全体で見ると達成しているが、個別では1年生と6年生の達成率が低かった。 ・就寝時間の基準は変えずに、声かけを続けていく。 ◇ハワイふれあいデーの結果 → 64.6 % ・守れた日の割合：全体では週3日程度、個別では、全くできていない家庭と全日できていた家庭との差がある。 ◇運動することが楽しい児童 → 92 % ◇お子さんは学校で元気に体を動かしている。(運動している。) → 81.8 %、 (判断がつかない→ 5 %) ・水泳や陸上などの大会が中止になり、保護者に運動している様子を伝える機会が少なかった。 ・学年通信等を活用し、児童が活動している様子を伝える。 ・昨年度の体力テストの結果から、投・柔軟領

(様式3)

とができたか。 ◇体力テストの考察を指導に生かしたか。 ○あきらめず粘り強く取り組む児童の育成 ◇だいじ掃除にがんばっているか。 児童アンケート→85%	B	域を伸ばすための運動を、朝の会や体育の時間に取り入れている。 ◇だいじ掃除にがんばっているか →94.6% ・掃除をねばり強くがんばる児童が多かった。 ・児童の意識と教員の見取りに開きのところがある。 ・生活月目標を活用し、児童が意欲的に取り組めるようにしていく。
(4) 地域とともにある学校づくり 【開かれた学校】 ○積極的な情報発信 ◇学校は、参観日や各種たよりやホームページなどで、子どもたちの様子をよく伝えている。 保護者アンケート90% ○地域に学ぶふるさと教育の推進 ◇単元計画に基づき、地域の人、もの、ことと深く関わる学習ができたか。	C B	◇保護者アンケート→82.5% ・コロナ禍で参観日や学習発表会等が開催できず、保護者が学校での児童の様子をなかなか見ることができていないため、ホームページや各種たよりで更なる情報発信が求められている。 ・授業にゲストティーチャー（ボランティア）が入っていただくことが日常化されてきた。 ・生活科や総合的な学習の時間など単元計画に基づき、地域の人、もの、ことと関わる学習が実施できた。

◎3の「中間評価」の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である